

シグマ委員会「JENDL-3 普及方策検討小委員会」第1回会合議事録（案）

日時： 1992年9月10日（木） 10:00～12:00

場所： 日本原子力研究所本部第2会議室

出席者： 喜多尾（データ工学）、瑞慶覧（日立）、吉田（東芝）、若林（動燃）、
菊池、中川（原研）

議 事

1. 経緯説明

菊池氏が、本小委員会が発足した経緯を以下のとおり説明した。

JENDL-3 の改訂を現在行っている。この改訂で出来上がる JENDL-3.2 を以て JENDL を作る作業は最後とし、その後は高エネルギー核データや特殊目的データファイル作成を重点的に行う。従って、我々の今までの作業の集大成である JENDL-3.2 を広く使ってもらうために以下の様な方策を検討したい。

- JENDL-3.2 のベンチマークテストの体制をどうするか？
- JENDL を面倒だからとの理由で使わない人たちをどうするか？
- 基準等の authority をとることが出来るか？

2. 討議

今後の方針等について討議し、以下のような意見が出された。

軽水炉の場合....

- 現在でも、最小臨界質量の予測精度はかなり良い。これは、今までの多くの経験の結果であり、核データはその一部でしかない。
- 原子炉では、核データよりも手法等に問題がある。だから user 側はデータを変えたくない。炉の運転履歴管理のうえからも途中でデータが変わると困る。
- ただし、10年単位で見れば、いずれ method を変えるときがあり、その時新しいデータが使われる可能性がある。

新型炉では....

- 新しい良いデータが使われるだろう。
- VHTR では炉心管理に JENDL-3 を使いたいと言っている。JMTR では炉心を組み替えるとき臨界計算をし、JMTRC でテストしている。そこで JENDL-3 を使ってもらえる可能性がある。
- 「ふげん」の運転管理のために JENDL-3 の WIMS ライブラリーがあれば使う可能性がある。

その他

- JENDL-3.2 を必ず使えと言うと user には抵抗がある。

- 実績が大事である。JENDL-3 の使用経験を「... ニュース」等の形で発表してもらってはどうか。
- 代表的な群定数ライブラリーを作成しサービスする事が必要であろう。
- JENDL-3.2 で最後だとの印象を与える必要がある。そのためにはシグマ委員会だけでなく、炉物理委員会との協力等により、広い範囲でベンチマークテストをするのも一案である。
- 必要以上に C/E が大きくずれている図を示すのは良くない。JENDL-3.2 は良いのだという PR も必要だ。
- 今まで原子力学会誌等に発表された JENDL のレポートでは、炉物理屋にしかわからない。もっと広い分野に JENDL-3 の PR をする必要がある。

3. その他

今回は 12月上旬とし、それまでに各自 potential user の意見を聞いて来ることとした。